

本市の推移と他都市比較

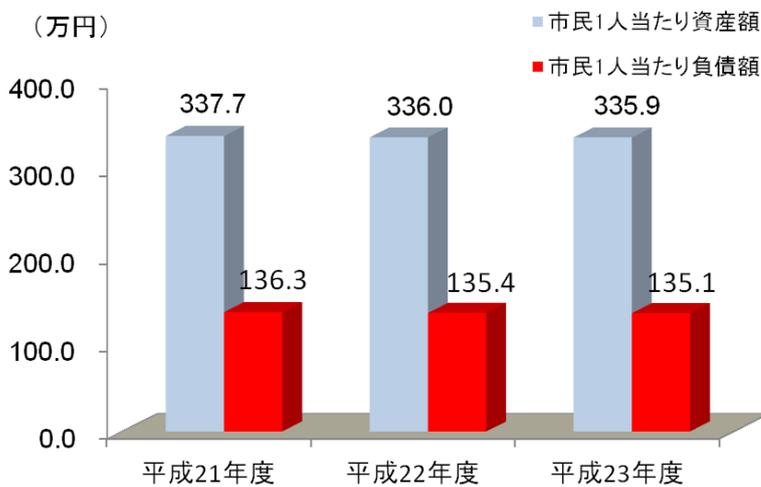
1. 市民1人当たり資産額と負債額

市民1人当たりの資産額及び負債額は、この間の公共事業の縮減や地方債の抑制、職員数の削減により減少傾向にあります。

また、他都市と比較（平成22年度決算時点）すると、多くの資産を保有していることも分かります。これは本市が早くから道路などの都市基盤整備に取り組んできたことによるものですが、同時に多くの負債（将来世代の負担）を負っていることも分かります。

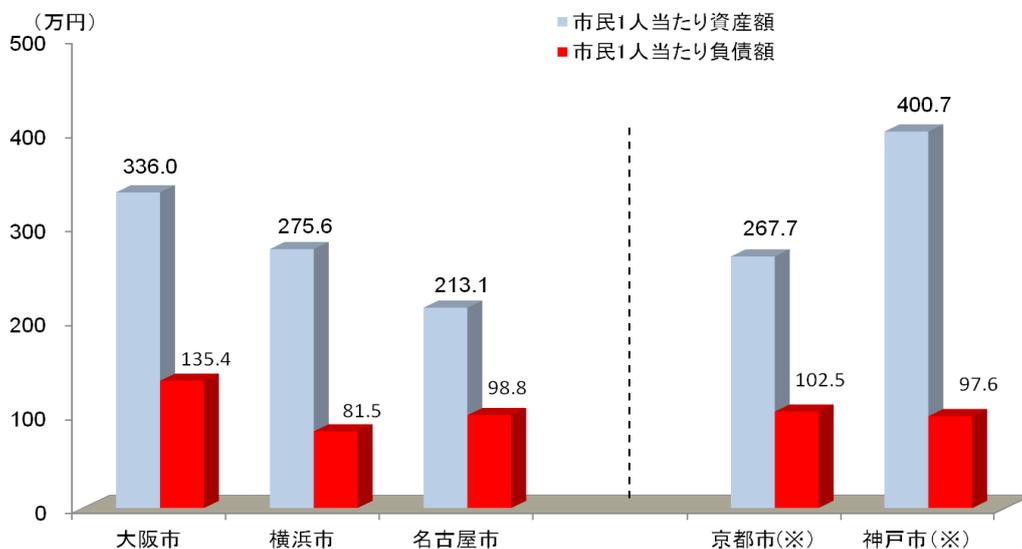
今後も負債額の縮減に努めていく必要があります。

① 3ヶ年推移（平成21～23年度）



※年度末の住民基本台帳人口により、1人当たりの額を算出

② 他都市比較（主要5政令市・平成22年度決算時点）



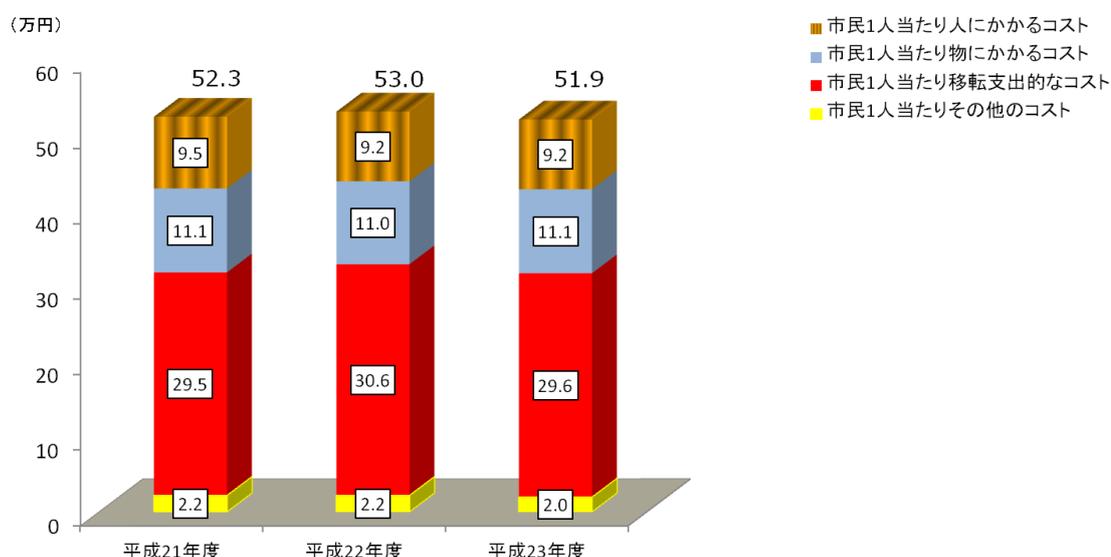
※京都市、神戸市については、有形固定資産のうち、土地を時価評価で計上

2. 市民1人当たり経常行政コスト

市民1人当たりの経常行政コストの主たるコストは「移転支出的なコスト」です。なかでも、生活保護の増加などにより社会保障給付は増加傾向にあります。

また、他都市との比較(平成22年度決算時点)では、本市が一番多くの行政コストを掛けていることが分かり、「移転支出的なコスト」は、他都市と比べ突出していることも分かります。なお、「人にかかるコスト」及び「物にかかるコスト」も他都市と比べ依然として高いことから、今後も行財政改革に取り組む必要があります。

① 3ヶ年推移(平成21～23年度)



② 他都市比較(主要5政令市・平成22年度決算時点)

